

# ロータリーの奉仕の意義

— 職業奉仕について —

昭和63年12月2日

本会議資料

第17回国際ロータリー

アジア第1・第3ゾーン研究会

<事務局>

〒604 京都市中京区河原町御池 京都ホテル  
京都ロータリークラブ内  
TEL (075)211-5550 FAX (075)211-8880

## 職業奉仕・メモ

R.I. 第268地区

PDG 坂田元記

1906年(明治39年)制定

### シカゴR.C.綱領

- 第1条：会員の業務上の利益を振興すること  
第2条：本来の社交クラブとしての親睦その他望ましい諸点を振興すること  
(翌年追加)  
第3条：シカゴ市の利益を推進し市民に市に対する誇りと忠誠心を普及すること

創立初め頃～1912年(明治45年)頃迄

### シカゴR.C.の互惠取引

シカゴR.C.は、一業一人を鉄則とし、「会員が物を買ったり、建てたり、保険をかけたりする時はまず会員に頼もう。会員からの注文は兄弟から頼まれたように、儲けなくて品質の良い物を原価プラス経費で提供しよう」といった会員間取引を始めました。これは Reciprocal Trade 互惠取引と

呼ばれています。

例会毎に、誰と誰との間にいくらの取引がされましたと報告されました。Statistician 統計係が任命され、集計して報告することになり、だんだん取引は増え続け、口頭での報告では間に合わなくなり、葉書で報告し集計されるようになりました。この互惠取引は、

- ① 一業種一人制で、会員はそれぞれクラブ内の独占企業であり、会員が増えると顧客も増えることになる。
- ② 会員がそれぞれ持っている商業的利益を、仲間に分かち合う。
- ③ 会員の職業上の優位性をお互いに交換し合う。という特長をもち、世間からは「かゆい背中のかきあい」Back-scratching と呼ばれましたが、それだけロータリーに入会することは利益につながったのであります。しかも、これで身についた「良い品を安く売る」習慣は仲間同士だけではなく、一般に対しても広げましたので、ロータリアンのお店はみんな良い品を安く売る良心的な店として町の評判となり、小企業だった会員が1912年ころにはみんな産をなし事業は成功の一途をたどり、葉書での報告もしなくなり、こんな取引もすたれていきました。

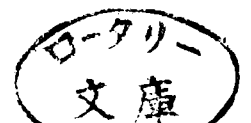
1910年(明治43年)制定

### 全米ロータリークラブ連合・綱領

1. アメリカ合衆国内のロータリークラブが加盟する組織として、ロータリーの原則を拡大発展せしめること
2. アメリカ合衆国内加入全ロータリークラブの業務と原則を統一すること
3. 市民としての誇りと忠誠心を喚起しかつこれを奨励すること
4. 進歩的で尊敬すべき商取引の方法を推進すること
5. 加入ロータリークラブの個々の会員の商業上の利益を増進すること

1911年(明治44年)全米大会で発表  
1950年(昭和25年)国際大会で制定

Rotary Mottos 標語



アーサー・F・シェルドン：

“He Profits Most Who Serves Best.”

フランク・コリンズ：

“Service Above Self.”

### 1912年(明治45年)R.C.国際連合大会制定 模範クラブ定款

1. すべての合法的職業の価値に対する認識を深め、社会に対する奉仕の機会を与えるものとして会員の職業を神聖化すること
2. 職業上の高い道徳的基準を奨励すること
3. 意見や商業取引上の方法をお互いに話し合い、各会員の能率を向上させること
4. 奉仕の機会および成功への道として知り合いを深めるための知識を普及すること
5. 社会福祉の問題に各会員の関心を促し、かつ市発展のため他の人々に協力すること

1915年(大正4年)国際大会採決  
1980年(昭和55年)規定審議会削除

### R. Code of ethics 道徳律

「自分の職業の基準は我々の誰もが持っている人間性に対する共鳴感に根ざしている。自分の職業についての処理、願望、および関連は常に社会の一員としての自分に最高の義務感を意識させている。職業上如何なるポジションにあっても又自分に課せられた如何なる責任においても自分の最大に関心はこれらを果し得た時に人間の理想のレベルを向上させ、そして従来よりも一歩前進した成果をあげる責任と義務を遂行するにある。であるから国際ロータリーにあって職業倫理のおきてについての基本として貴委員会は次に示す様な原則を堅持すべきものである」

- (第一) 自分の職業の価値を認め、そしてそれらは社会につきす絶好の機会を与えられるものとして自覚すること。
- (第二) 自分自身の向上に努力し、自分の行動を豊かにし、そして奉仕の分野を広めること。又、かくすることによっても最もよく奉仕するものは最も多く報いられると言う基本的なロータリーの原則についての自分の試

練を貫くこと。

- (第三) 自分は職業人であり、成功の大望を抱いていることを自覚すること。但し先ず、自分は道徳を重んずる人間であり、最高の正義と道徳に基づかない様な成功を望まないものであることを自覚すること。
- (第四) 利益のため自分の商品、自分のサービス及び自分のアイデアを交換するに当たっては、全関係者がこれによって利益を受ける場合においてのみ正当にして道徳にかなうものであると言う信念を貫くこと。
- (第五) 自分の従事する職業の水準を高めるよう最大の努力を払い、かくすることが同業者に対してもそのやり方は賢明であり、利益をもたらし、又自分の事例に従うことは幸福にもつながるものであることを納得させること。
- (第六) 自分の企業活動にあたっては、自分の競争者と同等又は、それにまさる完全なサービスを提供する様、努力すること。又、若し自信のない時は採算上きびしい限度を越えても余分のサービスを提供すべきこと。
- (第七) 専門職業又は企業人の最大の資産は、その友であることを認識し、この友情によって得たものこそ倫理的且つ正当なものであることを理解すること。
- (第八) 真の友情はお互いに何ら求むるところなく又利益のために友人の信頼をみだりに悪用することはロータリーの精神にもとるばかりでなく、この道徳律に相反するものであることを自覚すること。
- (第九) 合法的で道徳的な個人の成功と言うものは社会秩序の立場より絶対に認められていない様な正しくないやり方で機会を利用する様なものでないこと、又、物質的な成功のため他人が道徳的にも問題ありとして取上げない様な機会を利用しないことを自覚すること。
- (第十) 自分は社会の一般の人々に対して負う義務以上に同僚ロータリアンに対して義務を負うものではない。何故なればロータリーの神髄は競争ではなくして協力にあり、又党派主義はロータリーの様な組織において

はあってはならないことであり且つロータリアンは人間としての権利は単にロータリークラブに限られたものでなく、人類それ自身の様に深く、そして広いものであることを主張するものである。そしてこれらの高い理想こそロータリーをしてすべての組織に属するすべての人々を教化するために存在せしむるものである。

- (第十一) 最後に「あなたが人にして貰いたいと思うことは何でも人にもしてあげなさい」という(マタイ伝第7章)黄金律の普遍性を信じ、我々はこの地上の自然資源がすべての人々に均等に頒ち与えられる社会こそ最上のものであると主張してやまないのである。

### 結 び

「このおきての根元：これは単に人間の完成と国に自我の保存永続を認める様なギリシャのおきてではない。即ちロータリアンは単に自己保存の権利のみを主張するものでなく、他人をいためつけるよりも先ず自分自身をいためつけるものである。この様にこの道徳律は愛の上にその基盤をおくものである」

1915年(大正4年)ガイ・ガンディカー著

### A Talking Knowledge of Rotary

各ロータリアンはロータリーから自己の職業に派遣された大使であるから、職業関係の地元団体や全国的団体に所属することはロータリアンたる者の義務である。ロータリアン達はこれらの団体において積極的な行動をとらなければならない。すなわち、

- 第一に、職業倫理の高い理想を志す者の考え方を指導したり支持したりすること。
- 第二に、同業者への奉仕の念を起させること。
- 第三に、アイデアや企業経営方法を交換し、これによって、職業の効率を高めること。
- 第四に、当該職種の状態を向上させるように努めること。
- 第五に、同業者相互間や同業者全体の利益のために、同業者と協力すること。

1932年(昭和7年):ハーバート・テイラー  
1954年(昭和29年)版權:国際ロータリー

### 四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- ・真実かどうか
- ・みんなに公平か
- ・好意と友情を深めるか
- ・みんなのためになるかどうか

1936年(昭和11年)第70地区大会

### 大連R.C. ロータリー宣言

第一、須らく事業の人たるに先立ちて道義の人たるべし。蓋し事業の経営に全力を傾倒するは因って世を益せんがためなり。ゆえに吾人は道義を無視していわゆる事業の成功を獲んとする者に与せず。

第二、成否を曰うに先立ち退いて義務を尽さむことを思い進んで奉仕を完うせんことを念う。自らを利するに先立ちて他を益せんことを願う。最も能く奉仕する者、最も多く満たさるべきことを吾人は疑わず。

第三、あるいは特殊の関係をもって機会を壟断しあるいは世人の潔しとせざるに乗じて巨利を博す、これ吾人の最も忌むところなり、吾人の精神に反してその信条を紊るは利のため義を失うよりはなほだしきは無し。

第四、義をもって集まり、信をもって結び、切磋し琢磨し相扶け相益す。これ吾人団体の本旨なり。しかれどこの党をもって厚くすることなく他をもって拒むことなく私をもって党する者にあらざるなり。

第五、徒爾なる角逐と闘争とは世に行わるべからず、協力をもって博愛平等の理想を実現せざるべからず、しかり吾が同志はこの大義を世界に敷かむがために活躍す吾がロータリーの崇高なる使命ここに在り、その存在の意義またここに存す。

1942年(昭和17年)R.I. 理事会・宣言文

### 職業による奉仕

ロータリアンとして、私の目的とする所は：  
私の職業は、物質的所得の手段であるばかりでなく、社会に対する奉仕を実行する機会であると考えること。

高度の職業水準を堅持し、更にその向上に努め、あらゆる疑わしい行為を取り去ることによって、私の天職の尊厳と真価を守ること。

職業上の成功は、それが社会に対する奉仕の結果としてもたらされるときに、初めて抱くに価する願望と言うことができること；しかし、不当な便宜や、特権の濫用や、信頼の裏切りから得られる利益や栄誉は断じて受けないこと。

健全な取引というものはすべて、あらゆる関りに行わなければならないことを認識すること、そして、自分の職業の過程において、狭義の義務や責務の尺度を超越して奉仕することは寧ろ与えられた特権であると考えておろそかにしないこと。

#### 1986-87年度 第268地区大会決議

### ロータリー職業訓

(前文省略)

1. すべて職業は、これを天職と心得、自己の職業に誇りをもつと共に、人の職業に対しては心からなる敬意を払うべきこと。
2. およそ職業は、自然の摂理に従って営まれなければならない、徒らに効率のみを重んずるのあまり、それが自然の摂理に反することにはならないよう常に謙虚なる心をもつべきこと。
3. 自己の職業にかかわる全ての人々と、互いに人間関係を尊重することが職業の繁栄につながることを自覚し、相互に満足と感謝と信頼の心がかよあうよう心がけるべきこと。
4. 職業によってもたらされる所得は、適正な対価または正当な報酬に基づくべきものであり、もし、これに反する不正または不当な慣行のあるときは、それを排除するために、たゆまざる努力をなすべきこと。
5. 自己の製造もしくは配布する物品または自己の提供する労務もしくは、知識については、それを受領する人のために、打算を越えた責任を自覚すべきこと。
6. 自己の職業の繁栄は、同業者の繁栄と共にあ

ることを自覚し、常に業界に倫理基準を高めることに努め、もって共存共栄の道を模索すべきこと。

7. 職業を営むに際しては、常に、人のためにも涙を流す心を失うことなく、かりそめにも、人の涙の上に自らの幸福を求めることのないよう心を配るべきこと。

#### 1987-88年度 第279地区大会決議

### 職業人としてのロータリアン5ヶ条

(前文省略)

1. 職業とは生活の糧を得る道であるとともに、世の中において自己の役割を果たすことであり、ひいては自己を生かす道であると心得ること。
2. ロータリアンも一人の人間として社会道徳を遵守することはもちろん、自己の職業に対して不断の努力を惜しまずかつ自己の品位向上につとめ、知恵を深めてロータリアンとしての風格を備えるように励むこと。
3. ロータリーにおける奉仕は思いやりの心に発する。職業人として自己のために働くだけでは十分とはいえず、他人のことを考え他人のためにつくすことは、時代の変化が激しく、多様化する現在にあっても、変わらぬ職業の道である。こうした考えの下にロータリアンは地域社会のため、国のため世界のために職業奉仕の実践が習慣となるよう心掛けること。
4. 奉仕とは単なる心の状態ではなく、行動に出たものをいう。奉仕活動はロータリアンの心の表現である。ロータリーの原則と行動との調和の中にこそロータリアンの知恵が宿ると考え研鑽を積むこと。しかし注意すべきは、個人の場合よりも社会という集団とか組織の場合で、収益のためにはどうしてもエゴが先行しがちである。経営の首脳としてこの点にとくに配慮すること。
5. 職業はこれに関与するすべての人々に幸福をもたらすものでなければならない。ロータリアンは人間関係に対する自覚を深めるとともに、国の内外を問わず取引や交渉にあたってはいやしくも信義にもとることのないよう極力つとめる。職業の正しい在り方によってわれわれの望む国際的な平和に導かれると言う信念をもつこと。

#### 1988年大阪北 R.C.

### 職業の倫理

(前文省略)

1. 自分の職業が社会に必要であり有用であることを認識して、これに自信と誇りを持つこと。
2. 他人の職業もまた社会に必要であり有用であることを認識して、これを高く評価し尊重すること。
3. 職業が社会分業により与えられた責務であることを自覚し、少しでも良質の仕事を社会に提供することにより、職業の道徳的水準を高めかつ職業を品位あらしめるよう、最善の努力を尽くすこと。
4. 職業上の諸活動を実践するにあたっては、自分の好意が真実であるかどうか、公正であるかどうか、関係者との間の好意と友情を深めるかどうかとのいわゆる四つのテストを常に反復するとともに、「すべて人からせられんと思うことをその人にせよ」という黄金律の思想を精神的基盤とする。
5. 自己の繁栄は他人の繁栄とともにのみあることを自覚して、不正不当な職業上の手法を慎しみ、不当な独占の排除と公正な競争の維持に努めること。
6. 職業上の所得を適正な対価または正当な報酬の範囲に限定し、これを越える不正不当な利得を期待したり、要求したり、受領したりしないよう自制すること。
7. 職業上の活動の結果について、計算を超えた厳しい責任を自覚し負担すること。
8. 他に職業上の不正不当な手法を用いようとする者があつたり、または不正不当な職業上の利得を得ようとする者があるときは、業界の公正な倫理基準の設定やその実現に努めるなど、適切な配慮と必要な努力を怠らないこと。
9. 職業上の利益を得るための直接の手段として、ロータリーの親睦を利用しないこと。
10. 仕入先、顧客その他の取引の関係者や、出資者、協力者、従業員その他の職業の関係者との人間関係に深く配慮し、相互に感謝と信頼の心が通じ合うよう努めること。
11. 国内問題たると国際問題たるとを問わず、常

に職業に関する情報と事例の調査研究を行うは もちろん、職業の現状の正しい認識とその手法の公正なあり方への省察を尽くすことを通じて、将来的展望を踏まえた職業の正しい社会的対応に資するようつとめること。

#### 1986年度版

### 手続要覧—職業奉仕

Vocation (職業) という言葉は社会人の「一定の業務、稼業、実業、専門職業、或いは職務」を指すものである。ロータリーは、職業奉仕という言葉を使用するに当たって、Service (奉仕) という文字をその一番広い意味で使っており、単に実業或いは専門職業界における取引によってなされた業務或いは売られた商品を指すのみでなく、相手の必要と境遇に対して正当な考慮を払うとともに常に他人に対し思いやりの心をもって当たることもさしている。

職業奉仕はロータリーの綱領において次のような言葉によって強調されている：

実業および専門職業の道徳的水準を高めること；あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めること；そしてロータリアン各自が職業を通じて社会に奉仕するためにその職業を品位あらしめること；を鼓吹育成する。

別の表現をすれば、職業奉仕は、職業の世界において、奉仕の理想を推進することを目的とするものである。すなわち、職業奉仕は、

・個々のロータリアンが、その職業関係のすべてにおいて——従業員、競争業者、顧客および仕入先との関係において高い道徳的水準を適用し、かつ、

・ロータリアン各自がこの水準を、自分と職業を同じくする他のすべての人々のあいだに推進する

ことを意味するのである。

### 職業奉仕月間：10月

#### 1988-89年度 R.I.職業奉仕委員会

### 職業奉仕に関する R.I.の新しい方針

職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想を生かしていくことをロータリーが育成、支援する方法です。

職業奉仕の理想に本来込められているものは次のものです。

1. あらゆる職業において最も高度の道徳的水準を守り、推進すること。その中には、雇主、従業員、同僚への誠実、忠実さ、また、この人たちや同業者、一般の人々、職業上の知己すべてへの公正な取り扱いも含まれます；
2. 自己の職業のみならず、ロータリアンの携わるあらゆる有用な職業の社会に対する価値を認めること；
3. 自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てること。

職業奉仕は、ロータリー・クラブとクラブ会員両方の責務です。クラブの役割は、度々職業奉仕を実践してみせることによって、また、クラブ自身の行動に職業奉仕を生かすことによって、模範となる実例を示すことによって、さらに、クラブ会員が自己の職業上の手腕を発揮できるようなプロジェクトを開発することによって、目標を実践、奨励することです。クラブ会員の役割は、ロータリーの原則に沿って、自らと自分の職業を律し、併せてクラブが開発したプロジェクトに応えることです。

この奉仕部門にクラブ全体で努力することを新たに重視するに当たって、これを強化するために、クラブは、次の職業奉仕小委員会を設置するよう奨励されています。

#### 就職相談(Career Development)

- ・青少年の雇用推進
- ・実習プログラムの開発・支援
- ・学校で職業計画プログラムを組織
- ・新しい職業のための成人再教育

#### 職業指導(Vocation at Work)

- ・地域社会内に新しい仕事をつくる
- ・引退者にボランティアやパートの仕事を
- ・職場での薬物や飲酒問題
- ・職場で建設的雇用関係の推進
- ・四つのテストを適用・推進

#### 職業情報(Vocational Awareness)

- ・凡ゆる職業を尊重すべき事の認識向上
- ・職業分類談話
- ・会員事業所見学

#### 職業活動表彰(Vocational Awards)

- ・職業上の優れた実績の表彰
- ・高度の道徳的水準を表彰

## 未来に活力を

R.I. 第268地区

PDG 坂田元記

### 職業奉仕が出発点で基本

1905年、明治38年に誕生したロータリーは、創立当初から一業種一会員制を前提として、職業に励み、企業利益を増進し、夫々の職業の尊厳を守り、不正な取引をこの世から無くす事に、先達として務めて参りました。

ロータリーとは関係の無い現代経営学の第一人者のドラッカー博士は、最近の著書で「社会のニーズに従ってあるのが職業で、社会のニーズの無い所に職業は存在しない。それぞれの職業は、それぞれに社会に貢献している。職業も、自分の利益しか考えない Self の時代から、他人と利益を分かちあう協調が自分の為にもなる Fellowship の時代を経て、今や Service の時代、即ち他人と仲良くするだけでは共同社会は進歩しない、むしろ積極的にサービスして他人の利益を守る事こそ世の中を明るく豊かにする時代になった」と書いています。が之は、ロータリーの歴史そのもので、八十数年にわたり推進して来た奉仕の理想に燃える我々の職業奉仕が、社会に尽くし豊かな未来をつくるものである事を学説としても立証して下さったもので、ロータリーは今後ともにこの職業奉仕を基本として、ロータリアン個人、クラブ、地区、R.I.の全レベルで励まねばなりません。

### 変遷の世の職業奉仕

19世紀半ばの1859年ダーウィンが生物は生活環境に適合するようにだんだん進化するという進化論を、1901年ド・フリースはもっと激しく突然変異による進化もある事を発表し、その後多くの科学者が進化の研究をし、この二つの進化を実証しました。20世紀に入ってこの二つの進化は生物の世界だけでなく、科学技術の分野でも、人間社会でも起る事が実証されました。特に科学技術は、Metabolic 斬新的進歩にも勝って、Metomorphic 突然変異とも言える革新的進歩が同時に進み、それ

が直ちに実用化されるという特色をもって、20世紀を技術革新の世紀につくり上げました。

1900年当時地球上の人口は約17億人でした。それが昨年7月11日頃50億人に達し、現在既に3倍になってしまっており、21世紀を迎える2000年には62億人位になると推定されております。この爆発的に急増する人口が、健康的で豊かでしかも便利な生活をする為に、大量の物資が必要になり、その生産と輸送や、生活環境整備に、今世界的規模で、産業構造から社会構造迄をどんどん変えております。

この激しい変遷の中にあって、ロータリアンが夫々に、自分の職業を大切に明日に備えて励み、職業を通じて社会の為に尽くす職業奉仕を実践し続ける事がロータリアンを成長させ、ロータリーを育てる根底である事を更めて御承知頂きたいと存じます。

どんな世の中にあっても、常に公正であり、適正な利潤だけを求め、明るく楽しい労働環境と労使関係を守り、職場の中で災害を起したり、外に公害を出したりしない事はもちろん、同業者の中で、地域産業の中で、更に地域社会の中で、リーダーとなる活力を持ち続け、職業上の名声をはせ、信頼され尊敬される存在であり続けて頂かなければなりません。

### 進歩の選択、抑制と調和

技術革新は、人間の生活環境、家族構造、社会構造、産業構造、流通組織を激しく変えて参っております。この変化に懸命に適合し続けている人類は、前世紀迄の安定こそ理想のあり方と言う考えを一変して、進歩こそ人類当然のあり方と考えようになりました。

個人レベルで、職業も、生活もこの進歩に落ちこぼれないように、更には進んで先取りするように努力せねばなりません。しかも豊かさを求める人間の欲望には限りがありません。今後もまだまだ進歩に対応し続けねばなりません。

国レベルでも、発展途上国は工業化を、先進国は先端技術の開発と高度技術情報化へと、産業構造の変遷を進めております。各国間の経済摩擦も次から次に起っており、更に入り乱れて資源をうばいあって、進歩の美名のもとに開発を競い自然

p. 267 贈寄殿

冊  
02  
子 2291  
ロータリー文庫

を破壊し、砂漠を増やし、空気中の炭酸ガスを増やし、オゾン層に穴をあけて、地球レベルで環境を破壊しております。

進歩が人類を本当に幸せにして行くのでしょうか。人類に幸せをもたらす進歩と、人類に不幸せをもたらす進歩があるのではないのでしょうか。我々は之を判断して、進歩させるものと、進歩させてはいけないものにと選別し、後者は抑制する必要があります。進歩よりも抑制にはもっと勇気があります。『進歩と抑制を選択して自然との調和をはかる』異業種の職業人リーダーを網羅したロータリーとして大切なことはこの事であり、何を進歩させ、何を抑制するかを考え、世のために尽す行動に移す事が、明日のロータリーの課題であります。ロータリーは、常に世の為人の為に必要こんな新しい問題に挑戦せねばなりません。

### ロータリーの使命

地球人の一人一人が豊かな心と豊かな生活を持ち、愛情につつまれた家庭を築き、すべての職業に貴賤をつくらず、公正且つ意欲的に職業に励み、技術の進歩と自然の調和をはかり、思いやりの心をもって暖かい心で結ばれた地域社会をつくり、他国に恐怖や不安を感じさせない国家に仕上げ、そして世界を愛と信頼・寛容と相互依存で結ぶ事に奉仕し、平和で繁栄する一隻の宇宙船地球号を創る。それがロータリーの使命であります。

### THE FOUR-WAY TEST

Of the things we think, say or do.

1. Is it the TRUTH?
2. Is it FAIR to all concerned?
3. Will it build GOOD WILL and BETTER FRIENDSHIPS?
4. Will it be BENEFICIAL to all concerned?

02